

3人4脚



R3. 1/8(金) 第10号
二宮西中学校学校だより
発行者: 和田 智司

「情動伝染」…雰囲気を作り、一人の雰囲気が一人の雰囲気をつくる～

～一人の雰囲気が集団の雰囲気をつくり、集団の雰囲気が一人の雰囲気をつくる～

令和3年(2021年)の新年となり、すでに8日が過ぎました。本年もよろしくお願いいたします。今年は丑年。どんな困難に直面しても牛の歩みのように一歩ずつ確実に進んでいきたいと思っております。・・・新年を迎え、初めてお会いする方にあいさつすると、その都度清新な気分になります。なぜだかはよくわかりませんが、自分で発した新年のあいさつは、自分自身を変えていく効果もあるようです。

「情動伝染」という現象があります。情動伝染とは、他人の感情が他者にも移ってしまうような現象です。わかりやすい例としては、「もらい泣き」です。また、生徒のみなさんにとっては、身近な例として、明るく笑顔の多いクラスだと自分も知らず知らずと笑顔になったり、クラスの雰囲気がカリカリしていると、息苦しくなって自分自身もカリカリしてしまったり。・・・このようなことも情動伝染の一つです。

このようなことから言えることは、一人の雰囲気が集団の雰囲気をつくり、集団の雰囲気が一人の雰囲気をつくるということです。3学期がスタートし、新しい学年、進学という新しい世界に踏み出すまで3ヶ月となりました。良い雰囲気で進級、卒業していくためにも、学級や学年、学校の雰囲気をより良いものにして欲しいと思います。



特に3年生の皆さんには、受験(受検)に向けて、互いに支え合い、高め合う雰囲気をつくり、みんなで大きな壁を乗り越えて欲しいと思います。昨日、神奈川県を含む1都3県に緊急事態宣言の発令が正式にありました。今回は学校に対しては、前回のような一斉休校は求めず、高校入試は予定通り実施する方針です。しかし、感染症対策を強化し、より緊張感をもって今後の教育活動を行う必要があると考えています。

今年も感染対策を施しながらの学校運営になりますが、生徒たちが毎日笑顔で学校生活を送ることができるよう、教職員一同気を引き締めていきます。地域の皆さま、保護者の皆さま、今年も本校の学校教育へのご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

幾多の困難を乗り越えてきた箱根駅伝からその「魂」を学ぶ

1月2日と3日の二日間にわたって第97回の箱根駅伝が行われました。お正月恒例の大会です。多くの方がテレビで観戦されたことと思います。私はここ20年ほど毎年第6区のスタート地点である芦ノ湖に行っていましたが、今年は我慢し、学生たちの母校の誇りと仲間との絆を糧としてつなぐ姿にテレビの前から熱い声援を送らせていただきました。

箱根駅伝には毎年、さまざまなドラマがあり、生き方について多くのことを学ばせてもらっています。今年もさまざまなドラマが生まれました。最終10区での駒澤大学の大逆転はまさに驚きでした。抜き去った選手、抜かれた選手それぞれの思いを考えると、どちらの選手にとってもこのドラマが本人の生きる糧になればと考えながらテレビを見ていました。



2021

他にも選手として箱根路を走ることができず、給水係として懸命に選手に駆け寄る学生の姿やケガで選手として出場させることができなかった監督の無念のコメント、そして感染予防のため寮で懸命に仲間を応援する選手の姿など多くの感動や学びがありました。

その中で、今年、もっとも強く感じたことは、多くの選手のコメントです。インタビューを受けていたほぼ全員の選手が口にした「この大会を開催するにあたって尽力された大会関係者をはじめ、支えてくれた監督や選手、家族、全ての人に感謝したい」といった言葉です。

この言葉を聞くたびに、胸を締め付けられるような思いと駅伝を開催することができて本当に良かったという思いがこみあげてきました。練習を十分に積み上げることができず、コロナ禍と闘いながらの寮生活と学生生活。そして大会が開催されるかどうかの不安。これらの様々な思いが、この言葉になって出てきたのであらうと感じました。

郷里からのランナー小坂友我選手から学ぶ…感謝の気持ちと謙虚な姿勢が彼を成長させたんだー

1/3(日)のホームページで紹介しましたが、二宮中学校出身の小坂友我選手(日本大学3年生)が関東学生連合の第7区を走りました。実は本校の永井貴幸先生が彼の1・3年生の時の担任でした。永井先生は彼の中学時代を振り返って次のようなことを私に教えてくれました。

彼は中学校1年生の時の個々面談の際に箱根駅伝で走りたいという夢を語っていたそうです。また、物静かな中にも芯の強さを持っており、やるべきことをしっかりとやり抜く努力家である。とのことでした。・・・大会終了後、小坂選手は永井先生に「こんばんは 箱根駅伝応援ありがとうございました! 永井先生をはじめ多くの方々に支えていただき夢の舞台に立つことができました!(中略)来年は日本大学として出場してリベンジします! その時もまた応援よろしくお願いします!!」というLINEを送っています。・・・感謝の気持ちと謙虚な姿勢がここまで彼を成長させたんだーという感想を永井先生は語っていました。

※箱根駅伝戦後復活・今へ運ぶ風・二見忠義さん(96歳)から学ぶ(NTV:まもなく箱根駅伝 往路より)

幾多の困難を乗り越えてきた箱根駅伝。その思いを支えるのは母校の誇り、そして仲間との絆。学生たちの情熱が今年も歴史の轡をつなぎ、次の時代への一歩を踏み出す。1920年第1回箱根駅伝は歴史の扉を開いた。100年を超える道のりには、戦争で2度の中断もあった。戦後の混乱。再開は遠いように思われた。

それでも敗戦からわずか2年。箱根路に再び足音は響いた。明治大学OB・二見忠義96歳。復活大会は小田原で母校の応援を取り仕切った。部員がそろわないチームは、砲丸投げやハードルの選手も走った。復活にかけた計り知れない情熱。箱根駅伝が人々の希望になると信じたから。復活大会で優勝したのは二見の母校・明治大学。選手、運営、沿道、一体となって大きなうねりを生む。箱根駅伝、復活に魂を震わせて。

二見は「皆さんが一生懸命実行に向かって努力された。これが今に繋がっていることを見れば、本当に貴重な努力だった」と語った。・・・74年の時を経て、かつてない混沌の中、轡はつながった。

皆さんにも、こうした思いをぜひ共有し実感してほしいと思います。まだまだコロナとのたたかいは続きます。with コロナの中で感謝する気持ちを忘れることなく、新しい希望に向かってほしいと願うばかりです。いずれも、挫折経験からの奮起で成果を上げています。人は挫折を乗り越えたとき、真の強さを身につけられると思います。

3学期の始業式では二宮尊徳の「積小為大」の教えについて話しました。尊徳は他にも「至誠・勤労・分度・推譲」といった多くの教えと考えを残しています。生徒たちには「積小為大」の教えを信じ、箱根駅伝の「魂の教え」と結び付けて自分の目標の実現に向けて努力を積み重ねて欲しいと願っています。

